

## 再整備の必要性

【第1回・2回資料再掲】

- 建物自体は倒壊する危険性は低い、かなりの被害を受けることが想定される。  
(耐震性能ランクⅡ)
- 最大クラスの津波(レベル2)に対しては、現在の防潮機能では浸水によって地下に設置してある電気設備などに被害を受ける可能性がある。
- 築後30年以上が経過し、気候等の影響もあり建築設備などが経年劣化している。

以上のことから、大規模災害時において業務の継続に支障が生じる恐れがあるため、清水庁舎の再整備を行うこととしました。

## 静岡市が移転建て替えが合理的と判断した理由

【第1回・2回資料再掲】

以下の理由から、移転建替えが最も合理的と判断し、これを市当局案としました。

- 年間あたりのライフサイクルコストが最も安価であること(定量面)
- 工事期間が短く、工事期間中も市民サービスや利便性が低下しないこと(定性面)

## 再整備方法の比較(まとめ)

## 《定量評価(ライフサイクルコスト)》

		① 移転建替え		② 現地建替え		大規模改修							
						③ 高層棟8階		④ 高層棟6階 +低層棟		⑤ 高層棟7階 +設備棟		⑥ 高層棟9階 +設備棟	
イニシャル コスト	全体	74.22	億円	81.09	億円	70.28	億円	70.97	億円	69.06	億円	59.91	億円
	年間※1	1.14	億円/年	1.25	億円/年	2.70	億円/年	2.73	億円/年	2.66	億円/年	2.30	億円/年
ランニング コスト	全体	90.48	億円	90.48	億円	95.88	億円	96.33	億円	94.22	億円	98.22	億円
	年間※2	1.39	億円/年	1.39	億円/年	1.48	億円/年	1.48	億円/年	1.45	億円/年	1.51	億円/年
LCC	年間	2.53	億円/年	2.64	億円/年	4.18	億円/年	4.21	億円/年	4.11	億円/年	3.81	億円/年

※1建物の耐用年数を65年間とし、建替えは65年間で、改修は残年数の26年間で全体コストを割り返したもの。

※ ※1建物の耐用年数を65年間とし、建替えは65年間で、改修は残年数の26年間で全体コストを割り返したもの。

※2 全体コストを耐用年数の65年間で割り返したもの。

## 《定性評価》

【評価基準】○:現状と同等 △:現状より低下する

項 目	① 移転建替え	② 現地建替え	大規模改修			
			③ 高層棟8階	④ 高層棟6階 +低層棟	⑤ 高層棟7階 +設備棟	⑥ 高層棟9階 +設備棟
工事中の 市民サービス・利便性	○	△	△	△	△	△
工事中の駐車場	○	△	△	△	△	○

※上記以外の項目は、候補間に有意差が無いため、評価から外している。